

令和3年度 県立みなみのかぜ支援学校 学校評価報告書

◎ 学校経営ビジョン ノーマライゼーションの理念に基づき、全ての教職員が鋭い人権感覚をもち、一人一人の児童生徒に対して専門的な教育を充実させ、将来の自立や社会参加の基礎となる力を育てることで、保護者や地域から信頼され、笑顔あふれる学校を目指す。						
【本年度の重点目標】		学校関係者評価の視点	評価基準			
1 自ら選択し主体的に生きることのできる児童生徒の育成		<ul style="list-style-type: none"> 自己評価項目や指標等の妥当性 自己評価結果の妥当性 成果と改善策の設定の妥当性 	A：大変良い B：良い C：努力が必要 D：改善が必要			
2 可能な手段で自分の意思を示すことのできる児童生徒の育成						
3 防災体制の整備						
4 学校経営ビジョンの周知・徹底と笑顔あふれる学校						
5 子どもが変わる確かな指導						
目標	具体的取組事項 (P)	実際の取組と成果や課題 (D)	自己評価	改善策 (A)	関係者評価	具体的意見
2 1 可能な手段で自分の意思を示すことのできる児童生徒の育成	<p>①行事や授業参観を通して、児童生徒の自主性を尊重し、選択場面を設定した教育活動を推進する。</p> <p>②講師を招聘した人権教育研修等を通して、正しい障がい観の育成に努める。</p> <p>③各スポーツ大会やコンクール等への積極的参加を推進し、発表や自己表現の場の設定に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員のプラス評価が97%で最も高かった。 新型コロナウイルス感染状況により、行事や参観授業の分散開催や規模縮小、延期、中止が相次いだ。こうした状況下、虹色祭は学部別に開催され、児童生徒は日頃の学習の成果を存分に発揮することができた。 実施出来なかった行事に関しても、感染症対策を十分に行いながら、計画的に準備を進められた。 調理実習や歌唱など、制限せざるを得ない学習活動があった。 職員のマイナス評価が16%と高めであった。 体罰・ハラスメント防止について、外部講師によるコンプライアンス研修を実施し、人権意識を向上させることができた。 児童生徒の人権や学校の取組に関する保護者・職員へのアンケートを実施し、人権尊重への意識を高めることができた。 職員のマイナス評価が21%で3番目に高かった。 アート展や高文祭などの各種作品展へ積極的に出品を行った。 高体連主催の各種大会等に参加し、多くの生徒が日頃の練習の成果を発揮できた。 中学部生徒の部活動への参加を検討し、2学期より実施できた。 部活動中止期間が長引いた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を迎えての行事が実施できない場合に備えて、紙面や映像で学習状況を保護者に説明する機会を設ける。 ICTの効果的活用をめざし校内研究で取り組む。 感染症対策と教育活動の保証の両立をめざす取組を継続させる。 学校全体の人権意識の向上が不可欠である。次年度も積極的に校外や校内の人権研修を企画し、研鑽を積む。 運動系に限らず文化系も含め、各種大会に積極的に参加・出品し、自己表現の場を多く確保する。 メディアへの広報活動を積極的に行い、児童生徒の活躍の様子の発信に努める。 	B	<ul style="list-style-type: none"> このコロナ禍の中にあっても、いかに行事を行っていくかなど、考えてくださってありがたいです。 zoom等、オンラインをうまく使用しながら、保護者も含め、研修等ができると思えます。 プラス評価が高く良いと思う。 ICTの効果的活用は望まれていると思う。 コロナ禍の状況で、可能な限りの行事をしていただき、とても感謝しておりますが、虹色祭など他学部・他学年の様子を見られないことは残念です。zoomなどを利用したりして、なんとか見ることができると、保護者にも学びがあるのにな・・・と思います。 コロナで延期や中止は仕方無い。 スポーツや文化活動は、生徒さんにとっても大切な時間だと思います。また外部との交流も双方にとって貴重な体験になると思うので、情報発信をしながら積極的に取り組んでいただきたいです。 新型コロナウイルス感染状況により、行事等において様々な工夫をされ、ご苦労があったと思えます。 コロナ禍の中、行事等を工夫して実施するなど、児童生徒の主体的な活動を進めており良いと思えます。特に行事が実施できなくても計画的に準備を進めたという事は、その過程で、児童生徒の主体性が認められる場が確保されていたことがうかがえる。 改善の見通しも的確でよりよい学校運営への期待がもてます。 保護者への学校での繋がりにおいて写真、文章での情報は多くあった方がよいと思えます。
3 防災体制の整備	<p>①福祉避難所としてのマニュアルを作成する。</p> <p>②実際場面に応じた避難訓練や緊急対応訓練を計画・実施する。</p> <p>③災害時の保護者への引き渡し訓練を実施する。</p> <p>④防災袋や備蓄品の整備を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員のマイナス評価が25%で2番目に高かった。 宮崎市の防災担当者を講師に迎え、福祉避難所の運営に関する説明会並びに開設を想定したシュミレーションを行った。 具体的なマニュアル作成までには至らなかった。 感染症対策をとりながら、計画通りに火災や地震の避難訓練を実施できた。児童生徒は、落ち着いて安全に避難することができた。 職員のプラス評価は93%で高い評価であった。 昨年度に続いて、今年度も保護者引き渡し訓練を実施できた。全般的に有意義な訓練となったが、いくつか課題も見つかった。 防災メールの発出、車の誘導、子どもの呼び出し、保護者の確認等の流れを再確認できた。 職員のプラス評価は95%で良い評価であった。 PTA予算での計画的な購入で、必要最低限の備蓄品は用意できている。 防災袋の中身について、学期ごとに保護者にも確認してもら 	B	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎市の担当者との協議を継続し、運営の実際に即した本校マニュアルを作成する。 協議内容を職員に周知し共通理解を図る。 感染状況が落ち着けば、起震車体験や煙体験の場を設け、実際の地震や火事を想起できるよう工夫する。 非常災害時を想定した引渡し訓練の目的を改めて保護者に周知し、連絡体制を確立する。 感染症対策を講じた上での引き渡し訓練が今後も必要である。 備蓄品を計画的に購入・入替していくと共に、職員の防災袋も準備の必要がある。 防災教育の中で備蓄品を食べるなど 	B	<ul style="list-style-type: none"> 福祉ゾーンのみではなく、他の方も地域での訓練に、または協議の場があると、より具体的な対策が考えられるのではないかと思います。 日頃から避難訓練などの取組をしていただき、子供達がいざという時、行動できるようご指導して下さっていると思えます。 備蓄品を授業で食べるなどしていただくと、偏食の多い子供たちにも良い経験になるのかな・・・と思います。持たせている防災袋の中身を子供自身で確認してみるなども良いかもしれません。 コロナ禍で新たな対策が必要になっている為、様々なことを想定した計画が必要だと思います。 非常食を食べることは、非常時の体験ができるので必要だと思います。 具体的な取組事項の4分の3は、確実に実施されており、素晴らしいと思えます。 訓練を通して課題に気づく職員・児童生徒の目も素晴らしいと思えました。 福祉避難所としてのマニュアルについては、改善策にある取組を通して、実効性のあるものが作成されると期待しております。 緊急連絡網の整備、災害時のBCP計画が実践で活かせるようPDCAを回すことが重要だと思います。

		い、意識を高めることができた。		して、非常時に備える必要もある。		・コロナの陽性者、濃厚接触者への早期対応をメール等で、即連絡できる体制がとれるとよいと思います。
4 学校経営ビジョンの周知・徹底と笑顔あふれる学校	<p>①本校のあいことばと各学部・分掌部のキーワードに基づいて運営する。</p> <p>②常に笑顔で児童生徒や保護者、職員とのあいさつの励行に努める。</p> <p>③「できた！」と感じさせる授業作りを行う。</p> <p>④課題に対し、チームで関わり、チームで解決を図る。</p>	<p>・職員のマイナス評価は13%であったが、昨年度に比べると半減している。</p> <p>・各学部・分掌部のキーワードについては、学校要覧や各学部職員室に掲示するなど見える化を図り、浸透するよう促した。</p> <p>・学期末及び年度末反省で、各学部・分掌部のキーワードへの振り返りが不十分であった。</p> <p>・職員のプラス評価が97%と最も高く、日常的にあいさつの励行に努めることができた。</p> <p>・一方、「あいさつ=声に出す」という意識に偏っているという意見もあり、改善が必要である。</p> <p>・職員のプラス評価が93%で、5番目に高い割合であった。</p> <p>・校内研究でも取り組んできた内容であり、日常的に授業づくりの工夫をすることができた。</p> <p>・職員のプラス評価は90%であったが、マイナス評価も10%あった。</p> <p>・各自が自分の役割を認識し、役割分担しながらチームで課題解決を図ることができた。</p> <p>・各主任やリーダー等に役割が偏る傾向がある。</p>	B	<p>・日常的にあいことばと各学部・分掌部のキーワードを確認する場を継続して設定し、さらに浸透を図る必要がある。</p> <p>・児童生徒や職員へのより一層の浸透を図るため、新たなあいことばを募集し、現在最終段階にある。</p> <p>・声に出してのコミュニケーションが苦手な児童生徒へは、他の方法によるコミュニケーションの獲得を支援する。</p> <p>・児童生徒の「生きる力」を育む上でも職員の専門性の向上は重要である。今後も常に授業改善に取り組み、更に工夫を欠かさないようにする。</p> <p>・共通理解の場を大切にし、同じ方向性を持って支援に当たる必要がある。</p> <p>・役割分担の見直しにより、特定の職員に業務が偏らないように努める。</p>	B	<p>・学校も、家でも、その他の場でも、本人の居場所があり、様々な視点から見てどうなのか？といった協議の場が多くあっても良いように思います。</p> <p>・困ったことが起きてからの会ではなく、いつも本人を見守っていくための会が望ましいのかと思います。</p> <p>・②に関しては個人差がかなりあると思います。校長先生は、生徒を一人一人名前を呼んで声かけして下さり、感謝しております。</p> <p>・マスクをしていて表情が見えないので、明るい声を聞く子供たちも嬉しいと思います。声を出さないあいさつとして手話を使うなどのコミュニケーションはすでにいただいている職員さんにもいらっしゃいますが、保護者も含めみんなで使えると良いですね。(おはようなど簡単なもの)</p> <p>・先生に感謝しかない。</p> <p>・あいさつやコミュニケーションは、校内の雰囲気作りに大きく作用すると思います。常に笑顔で明るい校内であって欲しいと思っています。</p> <p>・合言葉やキーワードを浸透させたり、それをもとに振り返るといった取組をされたりしていることは、大いに評価できることだと思います。評価の幅を短くして軌道修正できるような取組はいかがでしょうか？</p> <p>・あいさつが笑顔でできることは素晴らしいです。なかなかできないことです。</p> <p>・職員のバックアップをしようという基本姿勢があるからこそ、チームで課題解決できるのだと思います。素晴らしいと思います。</p>
5 子どもが変わる確かな指導	<p>①児童生徒一人一人の実態とニーズに応じた目標設定を目指す。</p> <p>②児童生徒のわずかな成長にも気づき共に喜ぶことで認める指導を行う。</p> <p>③ひまわり学園や青島学園、他関係機関と情報を共有するとともに連携を図る。</p>	<p>・職員のプラス評価が96%で、大変高かった。</p> <p>・日常的に児童生徒一人一人の実態把握に努め、その実態に応じた目標設定を行うことができた。</p> <p>・職員のプラス評価が96%で、大変高かった。</p> <p>・日常的に、きめ細かく丁寧な指導を心がけ、児童生徒のわずかな成長にも気づき、共に喜ぶことで認める指導ができた。</p> <p>・職員のマイナス評価が26%と最も高かった。</p> <p>・各機関と連携を取って、情報を共有することの難しさがあるという意見もあった。</p> <p>・送迎時の放課後デイサービスとの情報交換ができた、必要に応じて、ケース会を開き情報の共有を行うことができた、という意見もあった。</p>	B	<p>・専門的指導力の向上に関わる研修のさらなる充実を努める必要がある。</p> <p>・保護者との連携を大切にしながら、児童生徒の実態に応じた支援を継続していく。</p> <p>・短期的あるいは長期的な見通しを持ち、計画的に授業を組み立て、より一層丁寧な指導に取り組んでいく。</p> <p>・積極的な情報共有の場を持つことと共に、必要に応じてはケース会の開催等で連携を深める必要がある。</p>	B	<p>・本人に関わっている支援者には、どんな専門職がいるのか、そこを知り、それぞれに合った機能を活かしていくことで、情報共有や本人のアセスメントが深まってくると思います。</p> <p>・各機関と連携をとりあって情報を共有してほしい。</p> <p>・生徒一人一人の実態によってどのようなニーズが必要なのか、子供に関わる機関との連携を取るのに、先生によって細やかさが全く違う。その為、戸惑う保護者がいるような気がします。先生も保護者も一人一人の間なので、仕方がない部分もあるが、“支援”学校なのだから、子供を知ってもらう為にも細やかな連携は今より必要なのではないでしょうか。</p> <p>・子どもの事を理解してくれて対応してくれている。何かあっても報告してくれる。</p> <p>・教育的な視点での指導に加え、作業療法士など療育を専門とする専門家との連携を広げることにより、生徒さん達の可能性がより広がっていくのではないかと考えます。</p> <p>・児童生徒と絶えず相談しながら目標設定をしていることがうかがえます。また、保護者と連携をされながら目標の実現に向けて支援されたのではないのでしょうか。大変素晴らしいと思います。また、わずかな成長を共に喜ぶことで、気持ちも明るくなったことでしょう。一步一步の成長の足跡も見える化されると児童生徒も励みになりますよね。</p>

